

授業科目	小児医科学Ⅰ・Ⅱ（講義・演習，演習・実習）（小児科専門医）（臨床専門医コース）		
取得する専門医の名称	日本小児科学会小児科専門医		
区分・単位	講義・演習 2単位×2 演習・実習 4単位×2	関連分野等	内科学、産科学、小児神経学、整形外科、放射線科など
年次・期別	1年次—2年次	曜日・時限	（講義・演習）月・水・金：午前8時～9時、午後8時～10時、火：午後7時30分～午後10時 （演習・実習）月～金 終日
教室	小児科研究室、小児科病棟、NICU, PICU	担当者電話番号	7251(内線)
担当教員	【研究科】教授：塚原宏一 准教授：岡田あゆみ 【病院】教授：大月審一 准教授：嶋田 明 講師：馬場健児、長谷川高誠 助教：吉本順子、宮井貴之、八代将登、鷲尾洋介		
一般目標	小児科学に関わる広い学識と専門技能を取得し、小児科専門医としての素養を養う。研究成果を論文として国際誌に発表する。		
到達目標	1、日本小児科学会の小児科専門医ガイドラインに則って小児科学後期研修を修得し、専門医試験に合格する能力を大学院終了までに獲得する。 2、臨床医学や病態の疑問を見出し、解決するための研究方法論を適切に計画・実行できる。 3、得られたデータを正しく解釈し、論旨を組み立て、英語論文として完成させ、国内主要学会・国際学会に発表できる。		
講義概要	1) 小児科学講義（講義・演習） 小児疾患診断学、小児放射線学、カテーテル検査法などについて学習する。 2) 小児疾患の病態の解明 小児臨床医学や疾患の病態には未解明の点が多い。臨床において患者さんから学び、未解明の点を追及し、真に自分自身が取り組みたい研究テーマを決定する。医師としての問題探求能力を養う。 3) 症例レポートの作成（臨床実習）（演習・実習） 指導医の下で日本小児科学会専門医試験の受験資格に定められた症例数以上を経験し、そのレポートを作成する。 4) 指導医の下で日本小児科学会循環器専門医試験の受験資格に定められた症例数以上の症例にカテーテル検査を施行して手技を修得する。また、治療を施行した患者の管理を学ぶ。 5) 症例検討会 分野内では毎週月、金曜日の午後に症例検討会、毎週火曜日夜の研究カンファレンスに出席し、論文抄読を行い、最新の知識も身に着けるよう努める。また、病院内の各科横断型のカンファレンスに参加してさらに専門的な知識を学ぶ。 6) 各種セミナー（演習）（講義・演習） 分野内では毎週行われるリサーチカンファレンスに参加し様々な研究の検証課程を学ぶ共に自らの臨床研究についても積極的に発表する。また、学会や専門医会などの主催する様々なセミナーに出席して小児科学の最先端の内容について学ぶ。 6) 学会参加 日本小児科学会総会ならびにその分科会に参加して、発表者の論理展開を理解する。また、自らが大学院終了時までに総会2回、地方会2回の発表を行う。		
テキスト・参考書等	専門書から論文まで多岐にわたるため、その都度指示する。また、インターネットを通じて自らが関連する文献を検索する。		
成績評価基準 成績評価方法	1週間に1—2回、指導教員数名を交えて、小児科学に関する議論を展開する。その内容と、日頃の診療姿勢、セミナーに対する姿勢などから総合的に判断する。		
研究活動との 関連	研究室では小児科学に関する臨床・研究を行っており、その延長上に、この授業科目が存在している。論文内容によっては臨床コースの到達目標を勘案する。		

基礎実習	基礎研究実習は、各自指導医に学び、当初の3ヶ月をそれに当てる
臨床実習	臨床実習はカテーテル検査予定日が火曜日、水曜日であり、指導医の下で、アシスタント、または、オペレータとして一定数以上の検査を施行して手技を修得する。また、術前、術後の患者の管理を学ぶ。
症例検討会	症例検討会は毎週月、金曜日の午後。
講義日程	<p>講義は、毎月第1、3火曜日午後7時00分より医学部棟5階小児科研究室にて行う。講義予定を以下に示す。変更になる場合には、登録大学院生に事前に通知する。</p> <p>小児免疫疾患・膠原病 塚原宏一 小児循環器病 大月審一・馬場健児・近藤麻衣子 小児血液疾患 嶋田 明・鷺尾佳奈 小児感染症学 八代将登 小児腎臓病 塚原宏一 小児内分泌疾患 長谷川高誠 新生児疾患 吉本順子・鷺尾洋介 小児心身医学 岡田あゆみ</p>
参加が望ましい学会等	<p>日本小児科学会総会 日本小児科学会中国四国地方会・岡山地方会 日本小児感染症学会 日本小児血液学会・ガン学会 日本小児循環器学会 日本小児腎臓病学会 日本小児リウマチ学会 日本小児内分泌学会・日本代謝異常学会 日本周産期・新生児医学会 日本未熟児・新生児学会 など</p>